

まつのやま学園

学校の恒例「山菜採り」へ

「ゼンマイみつけ」ウドもあつた」。十日町市立まつのやま学園（渡邊進学園長、72人）の春の恒例行事、山菜採りが14

日行われた。同学園では、地域の特産物である山菜に触れ、地元住民との交流を育もうと40年余り前から取り組んでいる。小学5年生から中学生までの48人が参加。学区の4地区に入り、地域住民や保護者と散策。山菜の種類や採り方、山を

歩く時の注意点など教わり、2時間半の春の山道を歩きウドやコゴミ、ゼンマイなどの山菜を探る。今年の成果は昨年60%余に比べ3倍以上あり、種類も10種余りが集まった。渡邊学園長は「昨年は雨だったこともあり収穫も難しかったが、今年は天気や時期も良かった」と話す。

収穫した山菜は、地域に向け販売。収穫当日に山菜の洗浄や選別、下処理、さらに梱包まで分担して行い、松之山温泉やナスティブュウ湯の山など6カ所に分かれ販売。松之山温泉のビジターセンターで販売した8年生の田辺真生くんは「山菜を探し探っていくことが楽しく、販売は思った以上に売れて嬉しい」。収益は今後、生徒会費や学校活動費に充てていく予定だ。

◆◆◆
今回、私も保護者として地域住民のひとりとして参加。松之山中学校時代で山菜採りがあり、同行事に参加は30年ぶり。最近では、母の探ってきた山菜を食べるくらいで、自ら山に入るのには数年振り。地域の子どもらと集まりいざ山に入るが、改めて見てみると「あ

れ、これゼンマイで合っている？ウドってこんなだっけ？」と、まるで役に立たないボンコツぶり。我が子にも『山菜ちゃんどわかってる？』と言われる始末。「母は、食べる専門です」と言い

つつも負けず嫌いに火が付き、山菜に詳しい方々に付いていき、探っている間に少しずつ思い出さす。でもみんなが探った山菜はウド、ゼンマイ、コゴミ、ワラビ、アズキナ、ネマガリタケ、ウル



児童生徒や保護者、地域住民らで山菜採りを行った（14日）



山盛りになった山菜、グラムをはかりながらパックに詰めていく

収穫後の下処理・梱包し温泉街で販売



詰め終わった山菜は6カ所に分かれ販売した

イ、キノメ、コシアブラ、トリアシだったが、分かったのはうち3種類くらい。しかし、難問は山に這い上がっていくこと。昔はスイスイ登って行ったのになあ「なんて思い出しつつ、見つけては我が子に頼み探ってもらった。こうして2時間半、よく歩き山菜もゼンマイワラビなど多く収穫。先生方に学校に運んで頂いた。

山菜の処理は、取材と称して遠慮させていただいたが、皆さんの協力体制が素晴らしく、これまた2時間半でゼンマイの綿取りや茹でて干すまで完了し、大量の山菜たちは袋やパックに詰められた。久しぶりの山菜採り、山の景色はいいし空気が美味しく汗もかける。だがしかし来年は、もう少し山菜の勉強をしてから行きたいと思う。
(相澤田加理)